

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	小学校の「総合的な学習の時間」における民謡学習 : 日本の民謡を探ろう
著者 Author(s)	鈴木, 慎一郎
掲載誌・巻号・ページ Citation	地域学論集 : 鳥取大学地域学部紀要 , 15 (1) : 71 - 79
刊行日 Issue Date	2018-10-31
資源タイプ Resource Type	紀要論文 / Departmental Bulletin Paper
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6329

小学校の「総合的な学習の時間」における民謡学習
— 日本の民謡を探ろう —

鈴木 慎一郎

The Learning Folk Song in Period for Integrated Study at Elementary School
: Investigation of Japanese Folk Song

SUZUKI Shinichiro

地域学論集（鳥取大学地域学部紀要） 第15巻 第1号 抜刷

REGIONAL STUDIES (TOTTORI UNIVERSITY JOURNAL OF THE FACULTY OF REGIONAL SCIENCES) Vol.15 / No.1

平成30年10月31日発行 October 31, 2018

小学校の「総合的な学習の時間」における民謡学習

- 日本の民謡を探ろう -

鈴木慎一郎*

The Learning Folk Song in Period for Integrated Study at Elementary School:
Investigation of Japanese Folk Song

SUZUKI Shinichiro*

キーワード：総合的な学習の時間、日本の民謡、音楽、モデル実践案、新学習指導要領

Key Words: Period for Integrated Study, Japanese Folk Song, Music, Teaching Plan, New Course of Study

はじめに

本稿の目的は、小学校の総合的な学習の時間における民謡学習のモデル実践案を構築することである。

小学校において総合的な学習の時間と教科の音楽と関連を図った先行研究として、山崎 (2011)¹、萩野 (2004)²、桂 (2003)³、竹内 (2003)⁴、寺田 (2002)⁵、滝沢 (2000)⁶、西園 (2000)⁷、佐野 (1999)⁸、兵庫教育大学 (1999)⁹、加藤 (1997, 2005, 2006)¹⁰が挙げられる。また、『教育音楽 小学版』の別冊として『音楽科がかかわる総合的な学習実践事例』(1999)¹¹や『音楽科がかかわる総合的な学習 1 地域から学ぶ』¹²『2 表現をする』¹³『3 世界から学ぶ』¹⁴ (2000) も発行された。その他筆者も修士論文「総合的な学習の時間と教科としての音楽の研究：学芸会での音楽劇の実践を生かして」(2002) を執筆した¹⁵。発行年に着目すると、山崎を除き、2000 年頃に集中している。総合的な学習の時間は、1998 (平成 10) 年の学習指導要領の改訂において創設された。小学校において創設当初は 105 時数と週 3 時間程度確保されたものの、学力重視の動向を受け、2008 (平成 20) 年の改訂では、70 時数に削減され、実践研究も停滞の傾向にある。

2017 (平成 29) 年の学習指導要領の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進される。この教育方法は、これまでに総合的な学習の時間でも重視されてきた。今回の改訂では、

各教科でも求められている。とはいうものの、音楽の授業時数は、第 1 学年：68 時数、第 2 学年：70 時数、中学年：60 時数、高学年：50 時数と限られており、子ども自らによる調べ学習等を展開することが厳しい状況である。そこで総合的な学習の時間との関連を図った学習を提案する。

ところで加藤は「総合的な学習の時間が始まったことにより、地域学習の一環として、地域の音楽や芸能への取り組みを位置づけた実践が数多くの学校でみられるようになった」と指摘する¹⁶。新学習指導要領においても「総合的な学習の時間」の探究課題として「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」が示されている¹⁷。野田は「小学校段階において「自己の生き方を考える」には、地域の人々と関わる中で、地域で活躍する人々に憧れを感じ、自分たちの住む町に誇りと愛着を感じることが必要だと思う。そのためには、教師は地域教材の研究が不可欠である」と主張する¹⁸。

そこで本稿では民謡、中でも日本の民謡に焦点を当て、モデル実践案を構築する。

I. 総合的な学習の時間における民謡学習

総合的な学習の時間では、「探究的な学習」と呼ばれる、「物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営み」が展開される¹⁹。図 1 に示された通り、子どもは「①日常生活や社会に目を向けた時に湧き

*鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース

上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、②そこにある具体的な問題について情報を収集し、③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していくのである²⁰。

ここで新学習指導要領において重視されている「主体的・対話的で深い学び」との関係について整理しておきたい。

「主体的な学び」とは、「学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び」と定義され、「課題設定と振り返り」が大切とする²¹。

「対話的な学び」とは、「他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める学び」とされる。「対話的な学び」には、「一人でじっくり

と自己の中で対話をする、先人の考えなどと文献で対話すること、離れた場所を ICT 機器などでつないで対話することなど」も含まれる²²。

「深い学び」については、「探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められ」ている²³。

田村は「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、以下の5つの教師力が必要と言及する²⁴。

- ①子どもの姿や発言を丁寧に見る、聞く（とらえる）
- ②子どもの思いや考えを理解する（解釈する）
- ③本時のねらいとの関係を考える（照合する）
- ④どのように振る舞うかを決める（判断する）
- ⑤分かりやすく板書したり、端的に発問したりする（振る舞う）

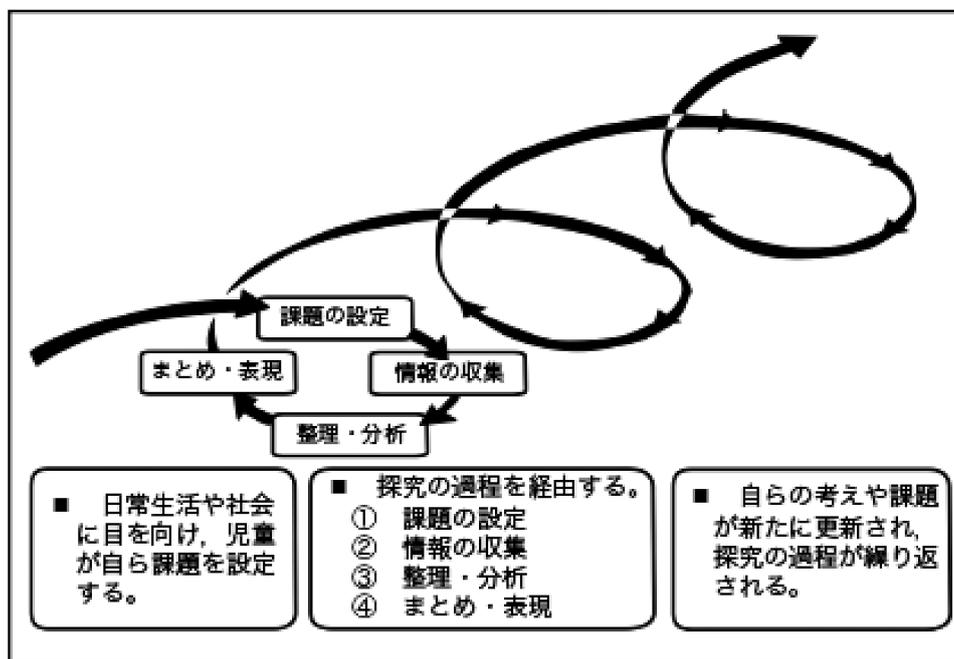


図1 探究的な学習における児童の学習の姿

出典 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2018年, p.9.

他教科との関連については、「各学校において定める目標及び内容については、他教科の目標及び内容との違いに留意しつつ、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること」とされる²⁵。総合的な学習の時間の構造イメージは、図2のように

示される。「他教科等で身に付けた資質・能力」も図示され、探究課題として「地域や学校の特色に応じた課題」（地域の人々の暮らし、伝統と文化など）も掲げられている。

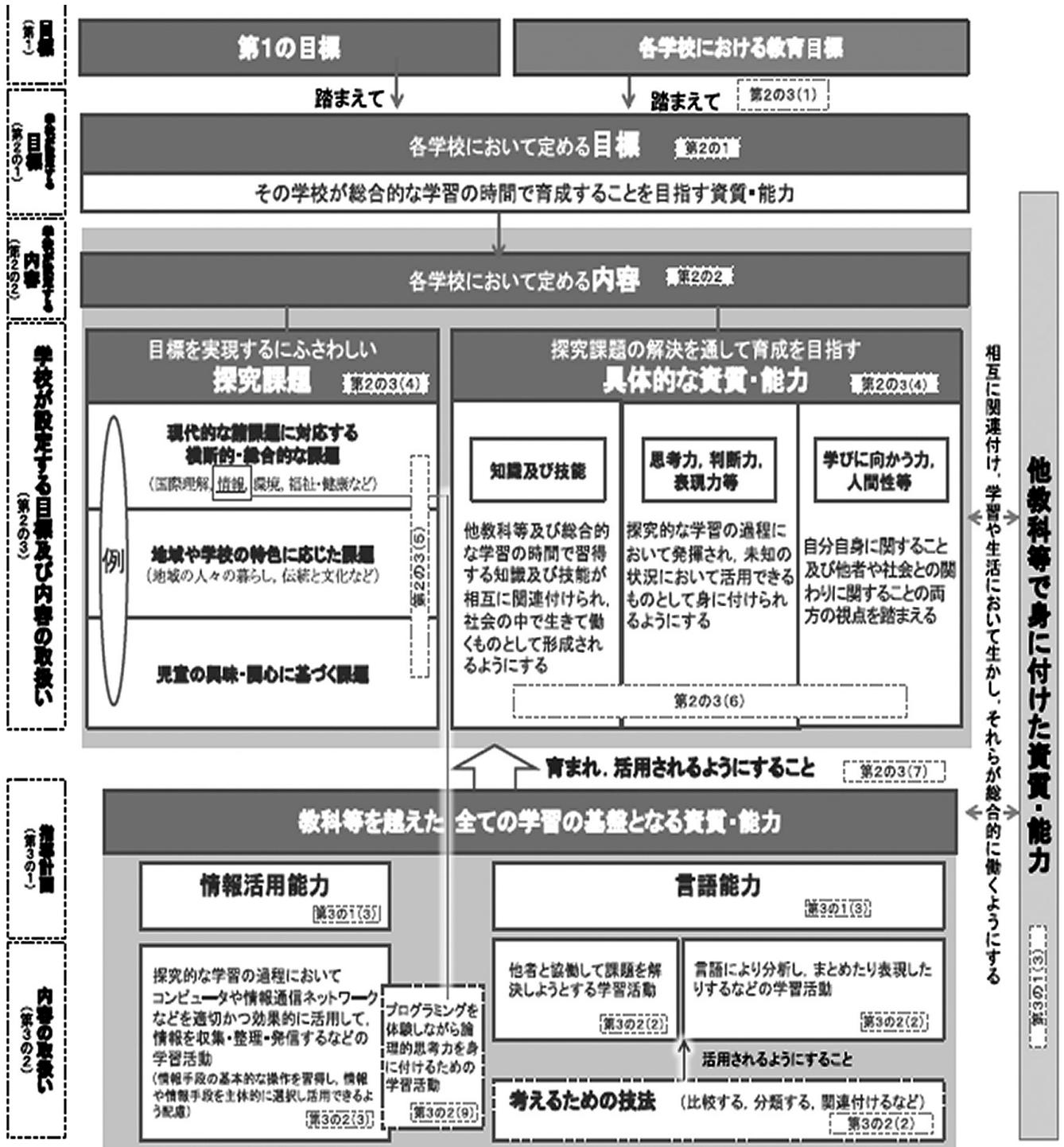


図2 総合的な学習の時間の構造イメージ (小学校)

出典 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2018年, p.18.

伊野は「郷土の民謡の学習では、独特の節回しを歌ったり、地域性をもった歌詞のおもしろさを味わうことができ」と評価する²⁶。小学校の総合的な

学習の時間における民謡学習は、表1に示した通り、教科である音楽と関連を図って指導計画を設定する。

表1 総合的な学習の時間と音楽を関連付けた指導計画

	第4学年	第5学年	第6学年
総合的な学習の時間	郷土の民謡を探ろう	日本の民謡を探ろう	アジアの民謡を探ろう
音楽	日本の音楽に親しもう ・音楽のとくちょうを感じ取りながら、日本の民謡をききとりましょう。 ・日本の音楽のふんいきを感じ取ってえんそうしましょう。 ・郷土の民謡	日本と世界の音楽に親しもう ・和楽器のひびきと旋律の美しさを味わいながらききましょよう。 ・《子もり歌》 ・日本の音階を使って旋律をつくりましょう。 ・声による世界のいろいろな国の音楽に親しみましょよう。	日本と世界の音楽に親しもう ・《越天楽今様》 ・楽器による世界のいろいろな国の音楽に親しみましょよう。

本稿では紙幅の関係上、第5学年の「日本の民謡を探ろう」を対象とする。第4学年の音楽において、「日本の音楽に親しもう」という題材名で、八木節様式である《ソーラン節》と追分様式である《南部牛追い歌》の比較鑑賞を行ったり²⁷，《こきりこ》や郷土の民謡である《貝がら節》を歌ったりして、日本の民謡について既習した。その際の学習プランについては、『地域学論集』第14巻第1号において発表した²⁸。

総合的な学習の時間の単元計画は、田村が用いる「①つかむ→②追究する→③広げる」に基づき、3段階で計画する²⁹。

第5学年の「日本の民謡を探ろう」の①つかむでは、第4学年で学習した音楽デジタル教科書を用い、郷土の民謡に対する意欲の高揚を図りたい。

図3の通り、ここでは「WEBジャンプ」というデジタルコンテンツがクリックでき、教育芸術社のWEBサイトにリンクしている。このWEBサイトでは、文章により小学生向きに民謡の解説がなされているものの、音声や動画は掲載されていない。音楽デジタル教科書のこのページにおいても、音声や動画は掲載されていない。音楽デジタル教科書には「教材作成」の機能があり、ファイルやWEBへ「リンク」することにより、音声や動画を加えることができる。意欲の高揚を図るためには、音声や動画を加え、少なくとも《ソーラン節》と《南部牛追い歌》については紹介し、八木節様式と追分様式の特徴を振り返りたい。なお、その際には、地元の唄い手の音源を用い、正統性にも配慮したい。

子どもたちは「4年生のときに日本の民謡について学んだな」と想起しながら、「他の民謡にも同じような特徴がみられるのかな」という問いを抱き、「もっと日本の民謡について知りたいな」という意欲へとつなげ、課題の設定としたい。

II. 教科書における日本の民謡

次にどこの地域の民謡を扱うかということである。表2は、2018(平成30)年度使用されている小学校、中学校の全2社の音楽教科書における日本の民謡の掲載状況を一覧にしたものである。小中一貫を図った民謡の学習を構築するために小学校だけではなく、中学校の教材も一覧にした。なお、かつての共通教材(中学校)に下線を付けた。戦前と戦後の教材の



図3 音楽デジタル教科書における「郷土の民謡」

出典 『小学生の音楽4』教育芸術社。

連続性を明らかにするために、1933（昭和8）年、広島高等師範学校附属小学校音楽研究部編『日本童謡民謡曲集』に掲載されていた民謡については、点線を付けた。また、町田嘉章・浅野建二編『日本民謡集』（1960）³⁰に掲載されていない民謡については、斜体で表記した。斜体となったのは69曲中12曲（17.4%）と少なく、大部分が代表的な民謡の掲載となっていることが分かる。

表2 教科書における日本の民謡

都道府県	曲名	小		中	
		教芸	教育	教芸	教育
北海道	ソーラン節	○	◎	◎	◎
	<u>江差追分</u>	△	△	△	△
青森	津軽じょんがら節	△	△	△	△
	南部牛追い歌	○	△	○	
岩手	南部木挽き歌				△
	斎太郎節	△	△	△	△
宮城	秋田おぼこ	△	△	△	△
秋田	子守歌				◎
	花笠音頭	△	△	△	
山形	会津磐梯山	△	○	△	△
福島	磯節	△	△	△	△
茨城	八木節	△	△		△
栃木・群馬	日光和楽踊り			△	
栃木	草津節			△	
群馬	秩父音頭		△	△	△
埼玉	太漁節	△	△	△	
千葉	江戸の鳶木遣			○	
東京	箱根馬子歌	△	△	△	
神奈川	縁故節	△		△	
山梨	馬八節		△		
新潟	佐渡おけさ	△	△	△	△
富山	酒づくり歌				△
	<u>こきりこ</u>	◎	◎	△	◎
石川	山中節		△	△	
	長持歌				△
福井	三国節	△	△	△	
長野	小諸馬子歌	△		△	△
	木曾節		△		
岐阜	郡上節	△	△	○	△
静岡	ちゃっさり節	△	△	△	
愛知	岡崎五万石	△		△	
	岡崎地方の子もり歌		△		

三重	伊勢音頭	△	△	△	
	江州音頭	△		△	
滋賀	淡海節		△		
	福知山音頭		△	△	
京都	河内音頭	△		△	
大阪	三十石船舟歌		△		
	吉野川筏歌	△	△	△	
奈良	デカンショ節	△	△	△	
兵庫	串本節	△	△	△	
和歌山		△	△	△	
鳥取	貝がら節	△	△	△	
島根	安来節	△	△	△	△
岡山	中国地方の子もり歌		△		
	下津井節			△	
広島	田植歌	△			△
山口	彦戸の舟歌		○	△	
	男なら	△		△	
	よいしょこしょ節		△		
徳島	阿波よしこの	△	△		
香川	祖谷の粉ひき歌			△	
	金比羅船々	△	△	○	△
愛媛	伊予節		△		△
高知	宇和島さんさ			△	
	よさこい節	△	△	△	△
福岡	黒田節	△	△	△	
佐賀	千越大漁祝い歌		△		
	岳の新太郎さん			△	
長崎	のんのこ節		△		
熊本	長崎ぶらぶら節			△	
	五木の子守歌	△	△	△	△
大分	鶴崎踊	△		△	
宮崎	刈り干し切り歌	△		△	
	ひえつき節		△		
鹿児島	鹿児島おはら節	△	△	△	
	朝花節				△
沖縄	谷茶前	△	△	○	◎
	ていんさぐぬ花		△		
	月ぬ美しゃ				△

凡例 教芸：教育芸術社，教育：教育出版。

◎：表現教材，○：鑑賞教材，△：参考教材。

下線：かつての共通教材。

点線：『日本童謡民謡曲集』に掲載。

斜体：『日本民謡集』に掲載。

北海道，東北，関東，北陸，東海，近畿，中国，四国，九州，沖縄の10区分とした。各地域の特徴を理解するためにも、子どもたちのグループ編成は10班，用意したい。

取り上げる民謡については、子どもが自主的に収集した曲を尊重しながらも、教師としては主要な民謡について熟知していれば、子どもへの的確な助言へとつながる。

Ⅲ. 単元計画

では実際にモデル実践案を構築していきたい。

新学習指導要領では、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、

ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）、ウ「どのように社会・世界と関わり・よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）の涵養」の三つの柱に整理された。表3に示した通り、2017（平成29）年告示の小学校学習指導要領では、目標が三つの柱で整理されている。

表3 総合的な学習の時間の目標の比較

2008 平成20年	横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動を主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
2017 平成29年	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

上記を受け、単元目標を以下の通り、三つの柱で設定した。特に①の「知識・技能」の習得では、教科である音楽の学びを生かした目標にした。ただし、音楽で求められる歌う技能の能力については、総合的な学習の時間では重視しない。②の「思考力・判断力・表現力等」の育成に関しても、実際に日本の

民謡を歌って表現するという方法もありうるものの、上手に歌えたか否かといった歌う技能の能力を評価の対象とはしない。むしろ、主体的・協働的、積極的といった③の「学びに向かう力・人間性等」の涵養の側面を大切にしたい。

1 単元名 日本の民謡を探ろう

2 単元目標

- ① 音楽で習得した日本の民謡の知識及び技能を基に、総合的な学習の時間の探究的な学習の過程において相互に関連付けられるようにする。
- ② 日本の民謡についての情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ③ 日本の民謡の学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に音楽文化に参画しようとする態度を養う。

以下の点に留意して実践を進める。第一に毎時間、ポートフォリオに記録をする。具体的には、毎時間の学習課題、活動の内容、今後の課題、感想、自己評価等を記入し、収集した資料等も綴じ込んでおく。第二に資料収集の際にはWEBだけではなく、文献、

聞き取り調査等豊富な資料に基づき、多角度から客観的に行う。引用する際には、著者名、発行年を必ず記載するように指導する。第三に有田、深谷らも推奨していた通り³¹、分からない言葉や読めない漢字等を国語辞典、漢和辞典等で調べる習慣を徹底す

る。このことにより基礎学力も向上する。第四にグループ学習を取り入れ、対話的な学びを保証する。

単元計画は表4の通りである。

柳田国男は日本の民謡を「①田歌、②庭歌、③山歌、④海歌、⑤業歌、⑥道歌、⑦祝歌、⑧祭歌、⑨遊歌、⑩童歌」に区分した³²。小泉文夫は「①労働、②宗教、③娯楽」に区分した³³。教育芸術社の中学校の教科書では「①仕事歌、②盆踊歌、③座敷歌、④子守歌、その他」に分類する³⁴。一方、教育出版の中学校の教科書では「①祭りの音楽・芸能、②仕事歌、③祝い歌、④踊り歌、⑤子守歌、⑥楽しみのための歌」に分類し³⁵、分類が異なる。小学校の教科書では分類されていないが、教育出版では発展学習として、「それぞれの歌がどんなときに歌われるか、図書館やインターネットなどで調べてみるとおもしろいよ」と投げ掛け、例として「仕事、お祝い、子もりなど」が挙げられる³⁶。このように日本の民謡の分類は一貫しておらず、また、複数の分類にまたがることも多々ある。本実践においては歌詞の特徴の分析の際に、どのようなときに歌われた民謡であったかについては着目していきたい。

「2 追及する」では、子どもの学習意欲を喚起するために、「日本の民謡を探る旅」の旅行計画を立てるという流れで展開する。交通手段、宿泊先、食事先についても具体的に調べる。旅の条件としては、日本の民謡に触れる機会を設定することとする。民謡の資料館があれば立ち寄り、そのような施設がない場合については、現地の唄い手と交流する場を設ける。観光やスポーツ等の体験も盛り込んでもよい。調べる際には、WEB だけには頼らず、ガイドブックや時刻表等の文献も用い、知らない語句に遭遇したら、辞典で確認する習慣を慣行する。そしてその計画については、パンフレットとしてまとめる。パンフレット作成の際には、配色、レイアウトにも配慮し、旅に出かけたくなるように工夫を重ねる。

「3 広げる」では、保護者も参加する授業参観において、発表会を開き、学習成果の発信を行う。作成されたパンフレットに基づき、この旅はとても魅力があるという点を強調してPR する。発表の際には、音声や映像等も加え、日本の民謡を流すことを条件とし、全国の民謡を共有できるようにする。

表4 単元計画「日本の民謡を探ろう」

	方法	時間	教育活動の展開	指導の手立て
1 つかむ	①	第1時	第4学年の音楽「日本の音楽に親しもう」の振り返りを行った後、グループ編成をし、担当する地域を分担する。 ・4年生のときに日本の民謡について学んだな。 他の民謡にも同じような特徴がみられるのかな。 ・もっと日本の民謡について知りたいな。	デジタル教科書
	②	第2時	担当する地域にどのような民謡があるかを調べる。 ・どんな民謡があるのかな。	
	③	第3時	担当する民謡の音楽的特徴（八木節様式 or 追分様式）について分析する。 ・民謡にはどのような音楽的な特徴があるのかな。	CD
	③	第4～5時	担当する民謡の歌詞の特徴について分析する。 ・民謡にはどのような歌詞の特徴があるのかな。	WEB
2 追及する	①	第6時	「日本の民謡を探る旅」の旅行計画を立てる。 ・「日本の民謡を探る旅」に出かけたいな。	
	②	第7～9時	「日本の民謡を探る旅」の旅行計画を立てるために、情報を集める（交通手段、宿泊先、食事先、民謡、観光等）。 ・どうやって行こうかな。どこにとまろうかな。 ・民謡を生ででききたいな。おいしそうなものがいっぱい。	WEB, ガイドブック 時刻表
	③④	第10～12時	「日本の民謡を探る旅」のパンフレットを作成する。 ・みんながでかけたくなるパンフレットを作成したいな。	パソコン
3 広	①	第13時	パンフレットを基に発表会を行うための準備を行う。 ・すてきなパンフレットができたね。	

げ る	④	第14～15時	・発表会を開いて、おうちの人にみていただきたいね。 プレゼンのリハーサルを行う。	パソコン
	④	第16～17時	・わかりやすく、伝わるかな。 授業参観の際に発表会を行う。 ・民謡のよさが伝わるといういな。	パソコン

凡例 ①：課題の設定，②：情報の収集，③：整理・分析，④：まとめ・表現

おわりに

小学校の総合的な学習の時間における民謡学習のモデル実践案を構築した。今後は実践を行い、その有効性を検証していく計画である。

最後に「主体的・対話的で深い学び」の視点からも考察しておきたい³⁷。

第一に「主体的な学び」を実現するためには「課題の設定」が重要となる。今回は教科である音楽の学習の振り返りから総合的な学習の時間の学びへと発展し、その橋渡しとして、音楽デジタル教科書を設定した。紙の教科書とは違い、音楽デジタル教科書では、音声や動画を加えることができる。課題を設定する場面では体験活動が決め手と言われる。音楽デジタル教科書を通じた音楽体験をすることにより、「他の民謡にも同じような特徴がみられるのかな」という問いを導き出したい。また、ポッドキャストを活用しながら、毎時間の学習課題の設定と振り返りも丁寧に行い、主体的な学びを実現していく。

第二に「対話的な学び」を実現するために、グループ学習を取り入れる。話し合い活動はもちろんのこと、文献やWEB等の情報と一人でじっくりと向き合う活動も大切にしていく。

第三に「深い学び」を実現するために、学習の過程において「どうしてその課題を追究してきたのか(目的)」、「これを追究して何を明らかにしようとしているのか(内容)」、「どのような方法で追究するのか(方法)」を子ども自らが自覚しながら学習を進める。情報の「整理・分析」の際には、「情報の吟味」と「情報の整理の仕方」に配慮しながら、「まとめ・表現」へとつなげていく。今回では、パンフレットの作成や授業参観の際の発表会が該当する。

グループで分担することにより、子どもたちは北は北海道、南は沖縄までの日本全国の民謡に出会うことになる。「2拍子の民謡が多いね」という気付きが得られたら本実践は成功といえてよい。村尾は、日本の宴会等でしばしばみられる、ためのある手拍子を「タゴビート(田子ビート)」と命名する³⁸。拍の表で打ち止めて、裏ではね上げる特徴がみられる。大部分の日本の民謡は、まさに「タゴビート」であ

る。日本人は農耕民族であったため、農作業で培われた独特の2拍子の感覚が定着してしまったことが要因であったと推察されている。一方、第5学年の音楽の授業では、朝鮮半島民謡の《アリラン》を学習する。こちらは3拍子系であり、騎馬民族であったことが要因として挙がる。このような音楽的な気付きが膨らみ、「アジアの民謡についても知りたいな」という思いへと発展できることを願っている。

付記

本研究は、JSPS 科研費 JP17K04785 の助成を受けたものです。

注

- 山崎浩隆「文化的実践への参加としての音楽づくりに関する一考察：小学校における総合的な学習の時間と音楽との関連を通して」『熊本大学教育実践研究』第28号、熊本大学、2011年、pp.49-55。
- 萩野典子「地域の音楽教材を生かした「総合的な学習の時間」の実践的研究：ふるさとの伝統芸能「阿波人形浄瑠璃」とともに」『学校音楽教育研究』8巻、日本学校音楽教育実践学会、2004年、pp.110-111。
- 桂直美・豊村雅義・飯島満子「重点研究Ⅰ音楽活動を含む「総合的な学習の時間」の展開：文化的実践への参加」『学校音楽教育研究』7巻、日本学校音楽教育実践学会、2003年、pp.8-13。
- 竹内俊一・高見仁志・一瀬啓「音楽活動を取り入れた「総合的な学習の時間」に関するデータベース化と傾向分析(2)」『兵庫教育大学研究紀要』第23巻、兵庫教育大学、2003年、pp.57-71。
- 寺田純子「児童一人一人のより良い生き方を求める力を育てるための構想と支援の在り方：音楽で拓く総合的な学習の時間」『教育研究所紀要』11巻、文教大学、2002年、pp.139-142。
- 滝沢達子「コア・カリキュラムとしてのワールド・ミュージック：世界音楽の教育的意義・日本音楽推進を超えて」日本音楽教育学会編『音楽教育学3音楽教育の課題と展望』音楽之友社、2000年、

- pp.62-77。
- 7 西園芳信・小島律子『総合的な学習と音楽表現』黎明書房，2000年。
- 8 佐野靖編『音楽で拓く「総合的な学習」』教育芸術社，1999年。
- 9 兵庫教育大学附属小学校教育研究会『「人間として生きぬく力」に培う総合学習：子どもならではの知の創造』黎明書房，1999年。
- 10 加藤富美子『横断的・総合的な学習にチャレンジ』音楽之友社，1997年。
加藤富美子「六・五 総合的な学習による音楽の学び」河口道朗監修『音楽教育史論叢』第Ⅲ巻(下)，開成出版，2005年，p.432-446。
加藤富美子『音楽が関わる総合的な学習の成果と課題についての実証的研究：悉皆調査と事例研究』平成16-17年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書，2006年。
- 11 『教育音楽 小学版』別冊『音楽科がかかわる総合的な学習実践事例』音楽之友社，1999年。
- 12 『教育音楽 小学版』5月号別冊『音楽科がかかわる総合的な学習1 地域から学ぶ』音楽之友社，2000年。
- 13 『教育音楽 小学版』8月号別冊『音楽科がかかわる総合的な学習2 表現をする』音楽之友社，2000年。
- 14 『教育音楽 小学版』11月号別冊『音楽科がかかわる総合的な学習3 世界から学ぶ』音楽之友社，2000年。
- 15 鈴木慎一郎「総合的な学習の時間と教科としての音楽の研究：学芸会での音楽劇の実践を生かして」愛知教育大学大学院教育学研究科修士論文，2002年。
- 16 加藤，前掲書，2005年，p.440。
- 17 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』2018年，p.30。
- 18 野田敦敬「特集新会長所信論文 自立への基礎を養う生活科，地域への愛着を深める総合的な学習」日本生活科・総合的学習教育学会誌『せいかつか&そうごう』第25号，2018年，p.7。
- 19 文部科学省，前掲書，p.9。
- 20 同上。
- 21 同書，p.111。
- 22 同書，p.112。
- 23 同書，p.113。
- 24 田村学「教育論壇 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業のイノベーションと学校経営」全国連合小学校長会『小学校時報』通巻801号第68巻第5号，第一公報社，2018年，p.7。
- 25 同書，p.25。
- 26 伊野義博「地域から学ぶ」『教育音楽 小学版』5月号別冊『音楽科がかかわる総合的な学習1 地域から学ぶ』音楽之友社，2000年，p.4。
- 27 「八木節様式：リズムは明確。比較的メリスマ的でない。追分様式：リズムは一般に不明確で，拍節法はほとんど存在しないと考えられる。メリスマ的なものが多い」
小泉文夫『合本 日本伝統音楽の研究』音楽之友社，2009年，p.84。
- 28 鈴木慎一郎「小学校の音楽デジタル教科書における日本の民謡の基礎調査：《こきりこ》を事例として」『地域学論集』第14巻第1号，鳥取大学，2017年，pp.123-136。
- 29 田村学『生活・総合・アクティブ・ラーニング：子どもたちの「能力」の育成と「知」の創造を実現する授業づくり』東洋館出版社，2015年，pp.72-118。
- 30 町田嘉章・浅野建二編『日本民謡集』岩波書店，1960年。
- 31 深谷圭助「有田和正先生の人間性と感化力」有田和正『人を育てる：有田和正追悼文集』小学館，2014年，pp.224-231。
- 32 小泉，前掲書，p.76-77。
- 33 同書，pp.80-81。
- 34 小原光一・飯沼信義・浦田健次郎監修『中学生の音楽①』教育芸術社，2017年(2015年検定済)，p.44。
- 35 新実得英監修『中学音楽1 音楽のおくりもの』教育出版，2017年(2015年検定済)，p.40。
- 36 新実得英監修『小学音楽 音楽のおくりもの5』教育出版，2017年(2014年検定済)，p.31。
- 37 鈴木慎一郎・大野桂「「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る小学校の音楽学習の基礎資料：新学習指導要領に基づいて」『地域教育学研究』10巻1号，鳥取大学，2018年，pp.26-34。
- 38 村尾忠廣「課題研究A <拍ノリ>の裏・表：タゴビートの裏・表」『音楽教育学』第18-1号(通巻19号)，日本音楽教育学会，1988年，pp.31-34。

